



議会だより 9月議会につづいて12月議会も本会議の質問に立たせていただきました。

12月議会は12月4日から11日までの8日間にかけて行われました。9月議会に続いて30分の枠で本会議質疑に立ちました。

- ・戦略的な予算と広報について
- ・人にやさしいまちづくりについて
- ・若松区のまちづくりについて

議員 若戸大橋等の無料化から一年が経ち小倉都心部とのアクセスも向上し、若松区東部地区にマンションなどの住宅が増えているが、まちの顔と言える若松駅周辺に空き店舗が目立つていなければならないがどうするか

建築都市局長 若戸大橋等の無料化をチャンスと捉え、地元商店街が空き店舗解消に向けた商店街ツアーなどの自主事業に取り組んでいる。本市も今後、本町周辺の空き地の新たな活用策検討のため、地権者に対し土地の活用・処分方法に関する意向調査を実施するなど支援を行う。商店街周辺が活性化し、若松駅周辺へ波及させることで、若松区東部地区全体のさらなる魅力向上につなげたい。



市議会だよりから抜粋



(一般質問)

次回、2月予算議会は2月25日から3月27日まで行われます。この議会でも、本会議で質問に立たせていただく予定です。質問日時は3月2日に決まります。

◆久岐の浜広場(若松駅前)の蒸気機関車(19633号)について公募を提案

この蒸気機関車については平成28年の6月議会で取り上げ、若松区の歴史でもありできれば修復して残せればと区役所や市の担当者の方とも議論を重ね、若松の経済界の方にも検討を頂きましたが、修復費用が現地修復で1000万円以上かかること、修復の騒音の問題があることから移設しての修復になればその2~3倍はかかるということで、今後の維持管理も含め財政的に厳しく、このまま放置することは危険であるということから、昨年後半に地元の皆様の要望もあり撤去という方向に決まりつつありました。ただ私自身も若松の華やかなりし時代に頑張っていた蒸気機関車をただスクラップにすることに大変抵抗感もあり、また撤去費用がなんと約1000万円もかかるということから、区民の方で機関車に詳しい方からのお知恵をいただき、最後の手段ですべて引き取り者負担での引き取り手公募をしてはと提案し、結果昨年末に公募となりました。

そしてマスコミなどで大きく取り上げていただき、選考委員会の審査の結果、この度添田町にある「めんべい」で有名な(株)山口油屋福太郎様に決定しました。添田町にある工場の敷地内に展示される予定で、工場見学や食事でもでき年間36,700名もの来場者があるとのこと。今後移設修復され展示される予定です。ぜひ会いに行きたいものです。

北九州市は10日、同市若松区で展示中の老朽化した蒸気機関車(SL)「めんべい」を手掛ける福岡市のめんべい製造販売会社「山口油屋福太郎」が引き取ることを発表し、福岡県添田町にある自社工場敷地内で展示し、石炭で栄えた筑豊や若松の歴史を後世に伝える資産として利用する。SLは1917年製で現在のJR筑豊線で石炭輸送に活躍後、同区で45年以上展示された。長年の風雨で車体が劣化し昨年12月から引き取り手を募集。国内外から応募や問い合わせが計約10件あった。

北九州市は同社を選んだ理由として、工場見学などで多くの人々がSLを見られることや、添田町は炭鉱で栄えた歴史があり、石炭積み出し港だった若松とのつながりを挙げた。今春を目標に設置場所を整備し、車体を修復して移設する予定。市の担当者は「石炭にゆかりのある添田町で再び活躍してほしい」と話した。(米村勇飛)

“再雇用先”は「めんべい」工場
老朽SL、北九州から添田へ

2020年2月11日西日本新聞掲載

◆9月議会での質問が実現しつつあります。

子ども子育て支援施策について

- ・「児童虐待防止におけるアドボケイト制度の導入」が、国に先んじて本市で4月から取り込まれる予定です。(正式には予算議会で可決されてから)

「北九州市子どもを虐待から守る条例」が全会一致で可決され、今年4月1日から施行されました。子ども家庭局を中心に取り組みが強化されているものの、残念ながらその後も児童虐待の事案が発生しており、条例の制定はゴールではなく、スタートであることを改めて強く感じています。

まだまだ苦しんでいる子どもたちが多くいる中で、子どもたちをいかにして虐待から守り、健やかに育てていくか、さらに具体的な取り組みが求められます。

そのひとつとしてアドボケイト制度の導入を提案したものです。

第三者を通じて、弱い立場にある子どもの意見表明権を確保し、虐待を防ぐ仕組みであり、虐待の発生や深刻化を防ぐため、子ども自身では伝えにくい被害の実態を聞き取って、「本音」を引き出す役割を担うものです。



- ・本市の子ども総合センターの一時保護所の在り方と一時里親の普及について
- ・子ども家庭相談コーナーの充実について

子ども・家庭相談コーナー家庭に関するあらゆる相談を受ける各区役所の子ども家庭相談コーナーは、市民の身近な相談窓口として大切な役割を果たしており、今後ますます重要性が増していくものと思われます。コーナーには子ども家庭相談員として児童福祉士や社会福祉士などの資格をもった専門職が配置されていますが、嘱託職員の方が中心で、虐待への対応など知識と経験が大変重要な業務にだけに処遇の改善や、専門性を高めるための体制強化が必要ではないか尋ねました。

他にも多方面からの質問をしています

- ・本市の学校におけるキャリア教育について
- ・SDGs未来都市について
- ・中小企業支援について
- ・東アジア文化都市事業について

などについても質問しております。

9月12日 一般質問

市議会だよりから抜粋

議員 情報技術の革新などに伴い、職業観が変化している中、キャリア教育にどのように取り組むのか。また、職業人が子どもと、働く意義などについて語り合う「夢授業」等に、市職員が参加しやすい職場づくりを行ってほしい。

市長等 キャリア教育については、「小学校応援団」等に協力いただき、体験活動の充実を図るなど、今後も子どもたちのキャリアアップ能力の育成などを進めていく。「夢授業」等への市の職員の参加は、職業人生の振り返りなどにもつながることから、今後もイフボスなどの取り組みを進め、職員のキャリア形成を応援する組織風土を育みたい。

市議会だよりから抜粋

詳しくは北九州市議会ホームページから会議録検索でご覧いただくか事務所までお問合せ下さい。